

「国立民族共生公園」の概要

平成26年6月に設置することが閣議決定された「国立の民族共生公園(仮称)」について、基本理念、基本方針、空間構成等の基本的事項に関して、「国立の民族共生公園(仮称)基本計画検討会(座長:浅川昭一郎北海道大学名誉教授)」による審議を経て、「国立の民族共生公園(仮称)基本計画」を取りまとめた。その後、「施設配置計画」が、平成29年5月23日アイヌ政策推進会議(座長:菅内閣官房長官)において報告、着実に進めていくこととされた。

1. 基本理念

民族共生公園では、自然と共生してきたアイヌ文化を尊重し、国内外から訪れる多様な来園者の理解を促進するとともに、豊かな自然を活用した憩いの場の形成等を通じ、将来へ向けてアイヌ文化の継承及び新たなアイヌ文化の創造発展につなげるための公園的な土地利用の実現を図る。

2. 基本方針

- (1) 自然と共生してきたアイヌ文化への理解を深める
- (2) 異なる民族が互いに尊重し共生する社会のシンボルとなる空間を形成する
- (3) 豊かな自然を活用した憩いの場を提供する

3. 計画区域

・計画区域は、ポルトと公園通の間に位置する面積約9.6haの区域

4. 施設配置計画

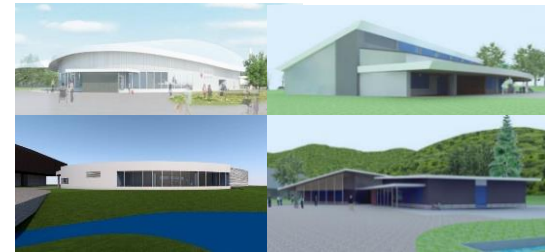
自然環境等を活かしながら、アイヌ文化の多様な要素を一般の人々が体験・交流する**体験型のフィールドミュージアム**として、また、多様な来園者が快適に過ごせる魅力ある空間を形成するために必要となる施設を配置。



* 国立民族共生公園 施設配置計画(H29.5)を元に修正

5. 主な施設

- ・体験交流施設
体験交流ホール
体験学習館
- ・工 房
- ・エントランス棟
- ・チキサニ広場



6. 検討の流れ

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に先立ち、平成32年4月の一般公開に向けて整備を進める。

「民族共生の象徴となる空間」における民族共生公園(仮称)基本構想(平成27年度)

国立の民族共生公園(仮称)基本計画(平成28年度)

施設配置計画、建築・公園施設(平成29年度)

体験交流プログラム等の検討

全体基本設計

「体験型のフィールドミュージアム」の具体化

「アイヌ文化の入口」として自然空間の中で自然と共生してきたアイヌ文化への理解を深めることができる場として、体験型のフィールドミュージアムを整備。

国立民族共生公園 「体験型のフィールドミュージアム」の具体化

○アイヌ文化は、アイヌの人々が長い歴史を通じて培い伝えてきた、自然を尊び、自然と共生する精神を反映した文化であることが特徴。

「民族共生の象徴となる空間」作業部会報告書(平成23年6月)

○「アイヌ文化の入口」として自然空間の中で自然と共生してきたアイヌ文化への理解を深めることができる場として、体験型のフィールドミュージアムを整備。

「国立の民族共生公園(仮称)基本計画」(平成28年4月)

基本理念を踏まえた
「体験型のフィールドミュージアム」
具体化の視点

自然と共生してきたアイヌ文化への理解を深める空間

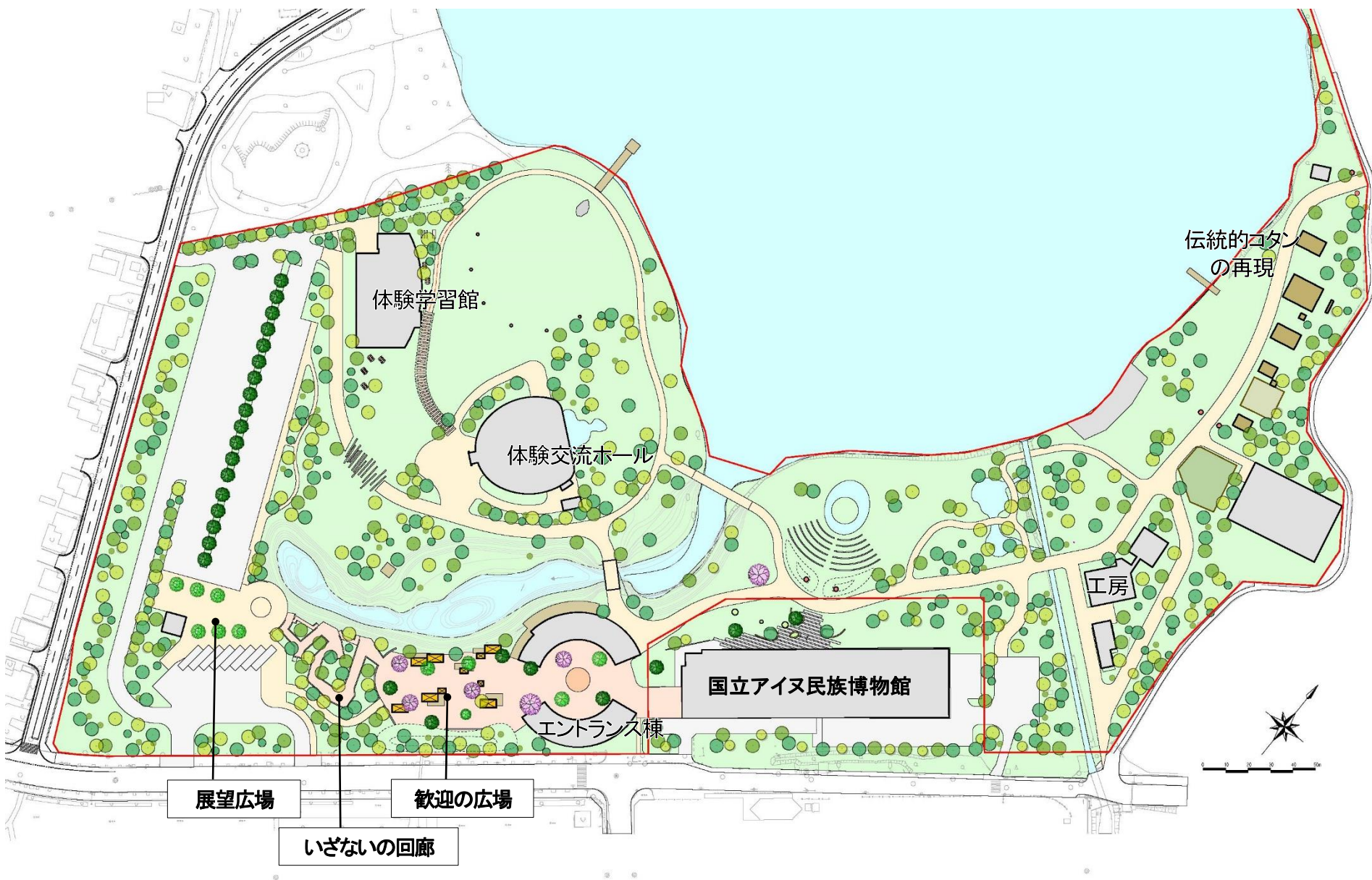
アイヌの伝統的な生活や文化を体感

屋外における古式舞踊等の様々な体験交流活動、イベント等に対応

自然の連続性やアイヌ文化と自然空間が織りなす一体的な景観

将来へ向けてアイヌ文化の継承及び新たなアイヌ文化の創造発展、各地域との連携

国立民族共生公園 全体基本設計



伝統的コタンのイメージ

- ・平成30年2月16日付けで建築基準法第22条区域(屋根不燃化区域)の指定が北海道告示第10142号により解除。これを踏まえ、消防施設を設け、建築基準法、消防法に合致する茅葺きの建築物(ポロチセ、チセ(中))を整備。
- ・伝統的建築技術を用いた展示等(チセ(小)等)を見学しながら、奥のポロチセ等に誘導。

種類及び棟数	主な用途
① ポロチセ(1棟) (入室可)	アイヌの精神文化や祭具等をテーマとした対話、伝統儀礼見学・参加、口承文芸披露等
② チセ(中)(2棟) (入室可)	伝統的生業をテーマとした対話等
③ チセ(小)(2棟) (入室不可)	建築作業を通じた伝統的建築技術の伝承。 ただし、内1棟の整備は建築過程の公開を目的として、象徴空間のオープン後に行うものとする。



(参考) 「いざないの回廊」「歓迎の広場」イメージ



「いざないの回廊」

「歓迎の広場」

